

(インドネシア) - 1件

1. 2020年、140MWの地熱発電所が稼働予定

2020年2月18日

エネルギー鉱物資源省・新再生可能エネルギー・省エネルギー総局(EBTKE)のイダ・ヌルヤティン地熱局長は18日、昨年未までに、地熱発電所(PLTP)の発電容量は2,130.8 MWに達し、今年さらに140 MWが追加され、2,270 MWになるとBisnis.comに語った。

昨年稼働中の地熱発電所(PLTP)は以下3か所。

- ①PLTP Muara Laboh (85MW)
- ②PLTP Sorik Marapi (42.3MW)
- ③PLTP Lumut Balai (55MW)

イダ地熱局長は、さらに3つの地熱発電所(PLTP)が2020年に商業運転開始されると述べた。このうち、Sorik Marapi PLTPは、45 MWの発電容量を追加する予定。今年度中に、PT PLN(Persero)150 kVネットワークで45 MWのSorik Marapi PLTP 第2号機と接続する。PT Sorik Marapi Geothermal Powerによって建設される。

また、東ヌサ・トゥンガラ州フローレス島のエンデ・リージェンシーにあるPLTP Sokoria(NTT)は、5 MWから合計30 MWの発電量を備える。PLTP Sokoriaは、国家戦略プロジェクトの1つであり、35,000 MWプログラム、およびPT Sokoria Geothermal Indonesia(SGI)が実施するフェーズII 10,000 MWファースト・トラックプログラム(FTP)の一部である。

稼働する3つ目の地熱発電所は、西スマトラ州の90 MWの発電容量を持つRantau Dedap 第1号機。発電所建設の投資価値は7億米ドルに達する。

イダ地熱局長は、「新しい再生可能エネルギーの開発は、インドネシア政府がエネルギーミックスを増やし、化石エネルギーと持続不可能なエネルギーへの依存を減らすための優先事項である」と語った。

(出典:2月18日 Bisnis.com)